

有機物を使って薄くて柔場した。低消費電力で鮮明らかく効率の高い発光材料な画質などは長所だが、耐を創出する拠点が今春、九久性や価格に課題があり九州大学に発足した。安達千波矢教授をセンター長とする「最先端有機光エレクトロニクス研究センター」(OPERA)だ。九州で採択された唯一のプロジェクトで大学とともに地元自治体

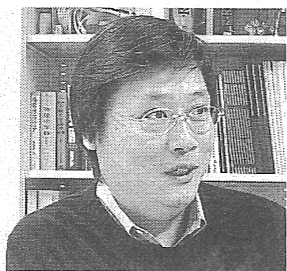
## 変わる 最先端研究

④

の期待も大きい。安達教授はOPERAの活動内容を説明するとき「スーパー有機EL(エレクトロ・ルミネッセンス)への挑戦」という表現をよく使う。

この20年、有機ELを表装置に採用した携帯電話やカーオーディオなどが登

### 九大・安達千波矢教授



強い大学

九大のOPERAに参画する機関

企業	新日鉄化学、東京エレクトロン、東芝、日産化学工業、日本化学工業、パナソニック電気、保土谷化学工業、三菱レイヨン、リコー
大学	岡山理科大学、京都大学、千葉大学、広島大学、北陸先端科学技術大学院大学
公的研究機関	九州先端科学技術研究所



有機光エレクトロニクスをけん引する安達研究室の実験施設(九大)

研究者も加わり新規材料を合成する。

連携体制を整える際、材料の測定・解析、評価にも強い研究者を巻き込んだ。有機材料の特性を最大限引き出すには、分子一個一個の単位で並び方を制御する必要がある。

必要がある。安達教授は、リコーの重点投資を表明した韓国サムスンや台湾勢。福岡に拠点を設けて情報収集や日本人研究者の獲得に乗り出す姿勢をみせる企業もあり、関係者に緊張が走る。OPERAは産業界との距離を縮め、スピード感ある推進を心がけていく。

### 有機ELの新発光材料

## 探索から評価まで網羅

消費電力の低減を目指す。次に劣化の機構を解明して信頼性を抜本的に改善する。最後に、生産性を格段に高め広い分野で利用しやすくなる。

た発光材料が約1200種類ある。これらをもとにさらに優れた特性を備えた材料の探索を進める。このテーマには新日鉄化学と東芝も参加する。

このために新材料の開発に力を注ぐ。安達教授の研究室には独自に開発してき

材料は固体にこだわらな「液体有機半導体」という新しい材料分野の開拓

半導体開発で実績のある滝宮和男・広島大学教授や千葉大学、日産化学工業の研

米プリンストン大学に留学した経歴を持つ。内外の研究者とのつながりをうまく生かした。さらに三菱化学

推進を心がけていく。(編集委員 永田好生)

## 先端技術